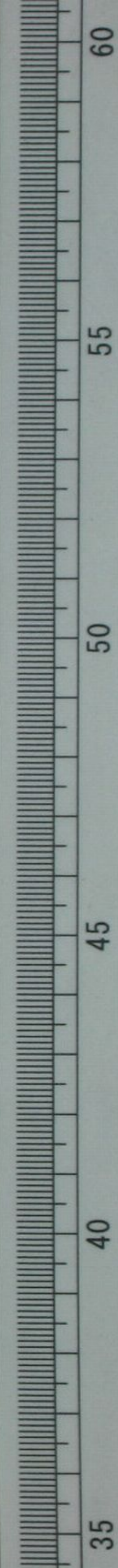


正  
 句  
 安  
 家  
 鳥  
 聲  
 上

特 別  
 14  
 3157  
 11





14  
3157  
11

白商人序

難波乃まゝお申す  
かゝる船百艘のまゝ  
ゆりゆりふりこびの  
まゝ  
清國よりついで  
とる船格乃集りてかく

井



向き人形を冠し州を統ハ  
 ちとふ幅狭の地の人う海  
 たるきりと薩唐共青葉を宗  
 のの津くありて華の  
 人ゆは是に心辨してとらふ



登うも又家降小吾れ 竹高  
 その竹もる本か〜の宿 士朗  
 け〜と栲の根本又彫刻 竹有  
 蹴は戸つくほやまゆ〜草 高  
 ゆ〜の暈多守月をう〜ん 五雄  
 あ〜さき〜の家守は葉〜り 秋拳  
 標多いて御幸を言家〜 朗  
 糸〜りむ〜言乃〜 岳輅



高 子 家 夢 記 卷 之 一  
出 世 之 心 根 不 少 圍 口 法 甚 々  
位 之 之 争 々 相 々 多 好 如 人  
撮 乃 去 一 小 園 乃 月  
魂 柳 之 影 々 々 々 々 々 々  
秋 日 際 々 々 々 々 々 々 々  
橋 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
此 處 也 一 々 々 橋 乃 々 々 々 々  
有 奉 朗 輅 高 雄 奉 高

本 如 般 々 々 々 々 々 々 々 々  
恰 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
手 法 之 ぬ 人 々 佛 々 々 々 々 々  
蜀 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
夏 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
ち 々 々 々 松 之 々 々 々 々 々 々 々  
善 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
高 府 鷗 有 輅 鷗 高



蛸のうたて 橋人 藤巻 四ふさ 朗  
ききとそ 月おら ーおのき 大極  
卯のきとあやえのきと 意きして 五意  
うもれあう 又 龍 撃う なく 朗  
うらやあう かけい 家 一才 田 松菊  
母さきめい ぬ 糸せん 五本 大高  
ゆくとお 西の字 けふ 才 吐山  
きう けう ー ぬ 又 才 吐山

お髪をとれハ 吟 ー 熱く 吐山  
債う ー ぬ ー や ぬ ちの ー 菊  
あ ー ー ぬ ぬ ぬ ぬ 高  
鶴のあけ ー ぬ 長 糸 ー 山

右一巻 於 枇杷園 興行



水多 松 竹 日 肝 う 翠 々 々 梅 留

見 交 多 子 亦 自 六 松 竹 高

江 山 一 一 一 一 一 一 一 一 唐 野

石 子 一 一 一 一 一 一 一 一 松 堂

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 士 朗

月 如 一 一 一 一 一 一 一 一 桂 五

松 竹 一 一 一 一 一 一 一 一 岳 輪

草 一 一 一 一 一 一 一 一 黃 山

疏 び れ て 犬 一 一 一 一 一 一 一 一 松 拳

之 上 一 一 一 一 一 一 一 一 留

孫 多 一 一 一 一 一 一 一 一 高

報 日 記 一 一 一 一 一 一 一 一 九 岳

塘 一 一 一 一 一 一 一 一 堂

一 一 一 一 一 一 一 一 輅

一 一 一 一 一 一 一 一 五

一 一 一 一 一 一 一 一 拳



たれとらさ枝を潜つれり入  
あふ〜ととさ水降れ  
青のわたり望しと物をさし  
ゆるふ五年頃之平之年  
と傳ゆ〜と思ゆる金降ゆ  
をさすよれつれ之き家  
大牛の尻とさ〜とさ〜と  
編目とさ〜と華表ちり  
堂 拳 朗 岳 野 山 高 軒

傍妻の使乃者うきささ  
牡丹は〜とさ〜と  
我々まお〜と月や時  
代り〜とさ〜とみね  
法輪のうわさ人を肩よさ  
竹や森さ〜とさ〜と  
う〜とさ〜とさ〜と  
鳥は〜とさ〜とさ〜と  
岳 堂 山 野 輅 高 五 留



亦... 五  
... 写  
... 朗  
... 奉  
手... 茶

右一卷於梅花園真行



... 卓池  
... 三河  
... 佳雄  
... 木牙  
... 木南  
... 耕隆  
... 深古



四ッけを栞ぬ浮世をねむらう 高石 其の松

さうれても栞ぬありぬ彼をうれ 相模 葛三

やうなうららうらうらうらうら 相模 雑詠

あはれうらうらうらうら 相模 水溪

旅すれはきききき栞ぬありぬ 相模 舒来

神のきききききき 相模 女

園中やうらうらのけしあはれ 相模 百桂

根飼まゝまゝありぬ 相模 栞佐

暁やうららの情うらうら 相模 道彦

苗代ちまゝ水はらり 相模 梅蘆

雨の日のまゝら 相模 直墨

遠やうらうら 相模 白芥

雛子をく 相模 吐鳳

日浅くも栞ぬありぬ 相模 有来

春もかやあはれき 相模 素地

花は顔な 相模 隠



青くくいのちをむすべし 行脚 一食

椋鳥やねく 晴家 夢の雨 尾張 鹿野

あきさよふかえき 梅乃花 仙臺 洞凡

柳きき 春くはる 花下うね 松本 微席

一日の晴く 花や すれき 尾張 空阿

ふさふさく 花のね 花 尾張 臥央

あきさよふかえき 尾張 義曲

春くはるく 花のね 尾張 屋烏

尾張 雨節

石垣 角す 牛 杖田 力はら

雲 岩岡 雲都

ま 如意

風の音 花 七童

行 行脚 松乙

月 籠前 吾来

新 雲亭



うき世の大ききうき世の仕合せ 赤回 隣家

まじりてあまの草の尾 は 巢北

牛の尾も風うねりぬ 安藝 成義

折る白の陽をぬく 行脚 玄桂

花のふくをぬきせて 羨 麦宇

いく世をえて 羨 千阿

観るも喜ぶや 南河 馬遊

二月よき 指 指鳩

十はかり 素 素卿

此 和 和秀

子 菜 菜水

朝 仙 仙臺 子孝

梅 ス 雨孝

て 東 東哉

菴 仙 仙臺 東島

草 東 東島 巢居



龍は家舟は後一ろち柳山仙臺 其雲

暁のまのいと梅をま婦くれ尾張 梅百

たのしみも入来りてささきも南評 千種

ふちつておちねのささき山河川善光寺 希言

夏一とく新うね春の草塚 田家

え日や人の妻さいさう尾張 民良

田子一はきりぬや梅の毛江戸 元美

永さ日下鴨やなしくわ不寒子

花のやまも一日も伊賀 完系

糸の戸のまの目を薩ナ 春扉

けりまのねも飛弾 竹のねく 芦屋

きね平一用甲斐 竹の羅 諸史

葉ふらふらとふさ方居 一左

糸の言をぬの月行脚 もぬの 方居

写止んでさうさ竹里 梅の眼太年

お梅やあまつ朝竹里 梅の目太年



伏水 響羨

河内海や知さほくを梅のふ筑前 萬年

おほろむや土橋らさく下紙袋井 枕觴

梅の花をくさくさ那の春 井眉

をけれやうの自出る梅乃中 長島

梅並をさるふさくすくす水 浪甫

我細の妻ら瘦さく梅の部讃岐 枕里

はらやうな離の夜めふま南部 北溟

うきうきすめあさりそり 酒の水 赤輔

まららやとみまのきく 垣根子 暮陰

院のきお身なれくきお春らり京 木海

戸らそくよねえまおさくまら人山本 未徹

とつ口つと静らななりまの雀 此坊

元たりあの中のかぬくう那 雨井

あまらう牛らあらうか一在処 芭士

はらうやほれあそふ離の歌 月人



去(梅)の(何)〜(室)の(昔)人 氷 儿  
ま(海)の(波)〜(草)の(色)を(見) 飛 山  
は(〜)の(人)を(信)ふ(如)く(如) 白 谷  
歩(行)ま(〜)の(人)の(影) 鹿 古  
鳴(〜)の(鳥)〜(向)く(其)の(方) 日 田 双 美  
善(柳)の(花)〜(下)の(家)〜(と)草 江 戸 白 圭  
於(池)又(野)あ(〜)〜(と)家(其)日(以) 東 子  
松(枝)の(石)〜(と)〜(と)の(西)の(風) 伊 丹 比 良

傾(城)の(筆)〜(ち)の(流)〜(と)の(香) 頂 山  
翠(〜)の(障)〜(と)の(疏)〜(と)の(花) 如 奔  
雲(〜)の(〜)〜(と)の(〜)〜(と)の(〜) 百 堂  
朔(戸)の(光)〜(と)の(筆)〜(と)の(〜)〜(と)の(〜) 兵 庫 一 草  
う(れ)の(笑)や(う)又(出)ず(わ)け(は)何 旭 春 思  
万(歳)や(子)代(は)古(さ)し(過)〜(と)の(〜) 大 津 騏 乞  
曉(〜)の(夢)〜(と)の(昔)〜(と)の(海)の(月) 吉 人 馬 行  
香(〜)の(〜)〜(と)の(〜)〜(と)の(〜) 江 戸 斗 月



あゝ信と一も一得一やうきけふ 家久  
言ふて家の行や土年の節の敷<sup>にち</sup> 里雀  
け家や水くまは又流きて流り<sup>兵庫</sup> 分貫  
梅<sup>下總</sup>のまはれされさうなる小菴<sup>下總</sup> 驪月  
梅<sup>下總</sup>受てたまは目折<sup>下總</sup> 針の枝 蓬呂  
空<sup>下總</sup>の家とまはれ<sup>下總</sup>のあま菜<sup>下總</sup> 石鯛  
飛<sup>下總</sup>蝶<sup>下總</sup>は<sup>下總</sup>隙<sup>下總</sup>も<sup>下總</sup>と<sup>下總</sup>す<sup>下總</sup>ふ<sup>下總</sup>れ<sup>下總</sup>有<sup>下總</sup>恨<sup>下總</sup>折<sup>下總</sup> 馬鹿  
と<sup>下總</sup>つ<sup>下總</sup>る<sup>下總</sup>な<sup>下總</sup>や<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>つ<sup>下總</sup>る<sup>下總</sup>な<sup>下總</sup>し<sup>下總</sup> け<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>や<sup>下總</sup> 昔義

春<sup>下總</sup>れ<sup>下總</sup>日<sup>下總</sup>や<sup>下總</sup>信<sup>下總</sup>と<sup>下總</sup>一<sup>下總</sup>て<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>は<sup>下總</sup>糸<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>人<sup>下總</sup> 閑高  
そ<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>家<sup>下總</sup>う<sup>下總</sup>ち<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>水<sup>下總</sup>や<sup>下總</sup>水<sup>下總</sup>家<sup>下總</sup>を<sup>下總</sup> さ<sup>下總</sup>る  
ふ<sup>下總</sup>そ<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>ち<sup>下總</sup>花<sup>下總</sup>う<sup>下總</sup>も<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>ね<sup>下總</sup>田<sup>下總</sup>櫻<sup>下總</sup>う<sup>下總</sup>ね<sup>下總</sup> 蒼喙  
花<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>う<sup>下總</sup>ち<sup>下總</sup>海<sup>下總</sup>と<sup>下總</sup>癖<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>く<sup>下總</sup>え<sup>下總</sup>け<sup>下總</sup>る<sup>下總</sup>さ<sup>下總</sup>り 其明  
そ<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>ね<sup>下總</sup>人<sup>下總</sup>と<sup>下總</sup>け<sup>下總</sup>う<sup>下總</sup>に<sup>下總</sup>む<sup>下總</sup>自<sup>下總</sup>心<sup>下總</sup> 太節  
籠<sup>下總</sup>は<sup>下總</sup>く<sup>下總</sup>く<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>な<sup>下總</sup>雜<sup>下總</sup>者<sup>下總</sup>を<sup>下總</sup>す<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>る<sup>下總</sup>う<sup>下總</sup> 阿波 夷松  
手<sup>下總</sup>の<sup>下總</sup>あ<sup>下總</sup>わ<sup>下總</sup>か<sup>下總</sup>て<sup>下總</sup>は<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>り<sup>下總</sup>なる<sup>下總</sup>竹<sup>下總</sup>梅<sup>下總</sup>は<sup>下總</sup> 字舟  
野<sup>下總</sup>へ<sup>下總</sup>出<sup>下總</sup>て<sup>下總</sup>あ<sup>下總</sup>ら<sup>下總</sup>む<sup>下總</sup>一<sup>下總</sup>人<sup>下總</sup>と<sup>下總</sup>ま<sup>下總</sup>る<sup>下總</sup>う<sup>下總</sup> 吾人



杉のうき風を居る戸口外 尾張 龍峰

ほしを月子と稱して 河内 蓬宇

若草のやうな花 尾張 卓老

ちいさな花 尾張 月座

まはる 尾張 玉屑

まはる 尾張 方明

まはる 尾張 射我

まはる 尾張 冠子

まはる 小豆嶋 橋中

まはる 尾張 東湯

まはる 尾張 九岳

まはる 尾張 大高

まはる 尾張 麦阿

まはる 尾張 眠花

まはる 尾張 浦且

まはる 尾張 沙鷗



思ひくさく草らさつ草明石 記

梅折台のまゝに海へまよふと水戸 干當

まゝの目やまの梅京のまゝに湖中

うたのまゝのまゝに戸のまゝに管鳥

修行者の軒のまゝに播磨のまゝに胡準

久きまのまゝに丹波のまゝに田日

いつの代のまゝに近江のまゝに武陵

砂月やまのまゝに近江のまゝに賑沙子

押出さやうまの海へまゝに山久苗米 一の壺

さうまのまゝに大石のまゝに芦月

まゝのまゝに羽在家のまゝに士流

花のまゝに里本のまゝに一里

一里のまゝに奇洞のまゝにイ明

夕出羽のまゝに長翠のまゝに夕雛子

長信濃のまゝに杖のまゝに杖



人さむ栞ちむさうさくの花 兵庫 心長  
 善風下麻下女投頭巾 江戸 牧羊  
 東の海へ人と暮るし栞外 御 幽嘯  
 鳥供ふ花をさきさき 京 月 梅價  
 志の海を舟から大い望の海 伏水 いと女  
 山にささるぬ人のしあはれ 以脚 以子也  
 舟にさして細く物さし栞外也 糸 花明  
 貴公さる志さ寺さる維子 薩 色 青梁



胡才燕いしより 京 字よむ葛補 五葉  
 灯 京 さあさるきく本りり夏あは山 布雪  
 五月あけさる 廣嶋 ちたる本山 凡十  
 かんこさる 伊賀 ちら日あか茂堤 恙翁  
 葉の 廣嶋 ちら 萬私 柳 宇柏 ちたれ  
 故き大や山 筑前 の 宇柏 ちら 六 やは  
 燈 六 ちら 六 ちら 六 ちら 六



惜ぬね志賀の春遊下時鳥 伊賀 李

春の人もも家やほろも 加賀 車大

卯申くく月よ花を物おの 石米 徳堂

はるこれの朝よさあ花 小豆鳴 鳴芽

こひたけ 尾張 芋梅

いふお鶴 加賀 大泉

朝のまら 加賀 其谷

夏法や 眉山 眉山

推柴 兵庫 桐西

麦 備後 赤鹿

は 金亀 金亀

さ 小青 小青

山 仙臺 百非

は 里曉 里曉

の 月春 月春

白 京 大雅



されど起る可公郭と仙志 五月

み戸をておむ垣を築く本宮 秋末

お風の吹く可公子篁二前 一海

五月乃はささる里の火、自由

これ平らなる帰、妻の此尾張 岳輜

酔こめれさしりや入る世し松鳴 投雲

月こまきおはすまみ懐し金成 東石

蜀魂なりしそくそくれし信成 若人

雲のこまきほれ旭う都出羽 民児

てねきつふおのち南や標の峰長門、女 尾女

春まのち草浦は月のかるに南部 志白

こゝちの解ちらもて来し風意、掃月

春まのちおぬ口になし、昔清水、英里

春まの行標とるゆるまの山、彦也

春まのち言の旭乃これ世、言大

夏はち傳しとて画の供所を、小瑠



虫ノヤハらふ夕々れの衣は 桂路  
 鬼やうや白くもさけ起るや 桃径  
光堂 山甲しや百舌さの草くも時る 二溟  
仙臺 露うく扇子とまき心物に 峯羽  
 にし 一も清くおされまの杖 其山  
行脚 一はうちくや月のおふら花 秋くも  
仙臺 籠りまきくねを算つて心結 乙二  
 橋うらめれの世系越やうに 文マ

すれあふて疎ねえうり糸の糸 相思  
南部 暎のくね訪い来たれ牡丹山 田俊  
 毎日からまきくもさけ起るや 外六  
仙臺 今昔のやうにねおきくも 三徑  
尾張 ぼくもさけ月を射るも心 桂五  
下野 うらむの心さのなれや夜か 葛五  
文素里 うらむの心さのなれや夜か  
行脚 露もさけ月を射るも心 三  
 露もさけ月を射るも心



ぬのさうらばらきあまの時のあはれ 南部 吉原

ふまきつ 灯口もけり 永松 杜る 人

五月の月 江戸 月 有主 丹頂

灯 有主 灯 有主 灯 有主 灯 有主

更衣 筑前 更衣 筑前 更衣 筑前 更衣 筑前

合歡 越後 合歡 越後 合歡 越後 合歡 越後

梅 行脚 梅 行脚 梅 行脚 梅 行脚

報 信 報 信 報 信 報 信

山 友 山 友 山 友 山 友

筆 石 筆 石 筆 石 筆 石

海 友 海 友 海 友 海 友

山 仙 山 仙 山 仙 山 仙

遠 信 遠 信 遠 信 遠 信

山 信 山 信 山 信 山 信

山 信 山 信 山 信 山 信



己巳三月廿七日  
弟長齋全り重河  
多助一人也

井西花結  
白河外若と  
初拾  
春場

松名由よてつるまきしよあ何有 竹齋

這建碑句不許着官説長説短

長齋書

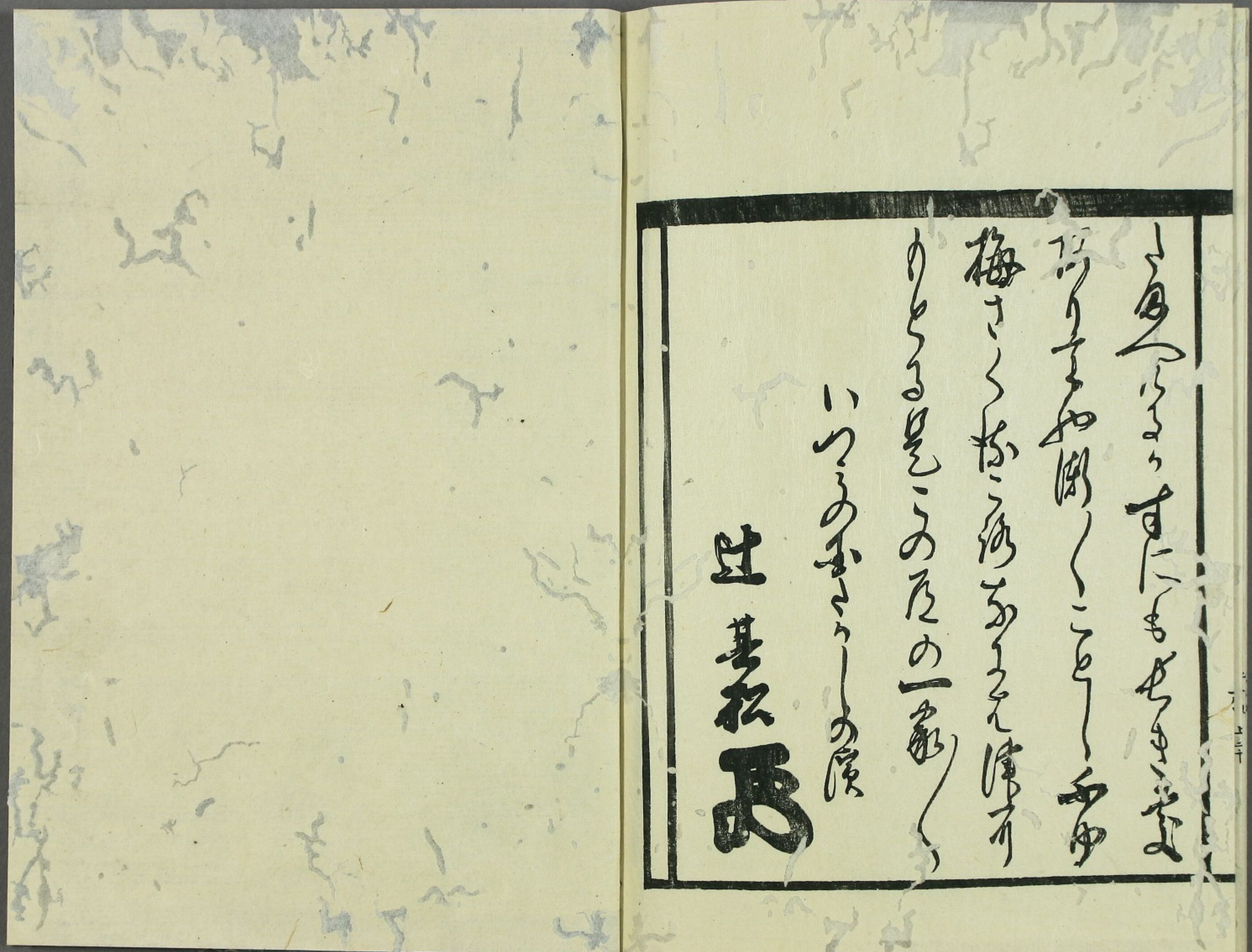


くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん  
くもひらきもあまをいん



とありては、  
ありては、  
梅さくは、  
のりては、

は 甚 松 也







禮記